
ショウのこいのぼり

神崎 優太

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

シヨウのこいのぼり

【Nコード】

N7516G

【作者名】

神崎 優太

【あらすじ】

シヨウくんのこいのぼりは、おとうさんの手作り。けど、とても小さくて、他の家のこいのぼりがうらやましいのです。「えさをあげてみたらどうだろう」おとうさんは言いました……。

ショウウくんの家には小さなこいのぼりがありました。

わりばしでつくったさおに、厚紙で作った黒い、まごいが一匹。

ショウウくんのためにお父さんがつくってくれた、手作りのこいのぼりです。

だけどショウウくんは、他の家の大きなこいのぼりがうらやましくて仕方ありません。

「おとうさん、どうしてうちのこいのぼりは小さいの？」

「どうすればあんなに大きくなるの？」

お父さんは困り顔。

「そうだなあ、金魚のえさでもやってみたらどうかな？」

ショウウくんはその日から、毎日、金魚のエサをこいのぼりにあげ続けました。

そして一週間後、なんとこいのぼりは倍の大きさになっていました。よかった。よろこぶショウウくん。

「オナカガヘッタヨ」

しかも、こいのぼりは言葉を話せるようになっていました。ショウウくんのお父さん、お母さん不思議そうです。

そのままエサをあげ続けると、こいのぼりはついに、最初の何十倍もの大きさになりました。もう、どこの家のこいのぼりにも負けません。

ショウウくんは毎日のように自慢のこいのぼりを眺めています。

だけど、こいのぼりはなぜか元気ありません。

「なんで元気がないの？」

ショウウくんがこいのぼりにそう聞くと、こいのぼりは悲しそうにこう答えます。

「ミンナ仲間ガイル。僕ハ一匹ダケ。サミシイ……」

たしかに他の家のこいのぼりは、まごいの他にひごいや子供のこ

いもいて、にぎやかです。

「僕にまかせて！」

数週間後、シヨウくんの家の庭には、まごいとひごいと子供のこ
いと一緒にになった大きなこいのぼりが、大空を泳いでいました。

「ひごいと子供は、僕がつくったんだよ」

シヨウくんは得意顔です。でもなぜか、吹流しだけは小さいまま。
「あれはエサを食べてくれなかったんだ……」

それでも、こいのぼり達は尾を振り、せびれを動かして喜びいっ
ぱいに泳ぎます。

「アリガトウ。アリガトウ」

そして、次の年の五月。シヨウくんに弟ができました。

生まれたばかりの弟をだっこして、一緒にこいのぼりを見ていた
シヨウくん。

「そうだ、いいことを思いついた！」

シヨウくんは、こいのぼりの一家にも弟ごいをプレゼントしまし
た。全部で四匹になって、こいのぼりの家族はますますにぎやか。

「一緒だね」

シヨウくんはお父さん、お母さんと一緒にこいのぼりを見上げて
そう言いました。

「次は妹がいいよ！」

シヨウくんのその言葉に二人は、にこにこ顔。

「そうしたら、今度は妹ごいをプレゼントするからね」

こいのぼり達は、楽しげに青い大空を舞うのでした。

(後書き)

こどもの日も近いので。お子さんに読んであげてもらえればうれしいです。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7516g/>

ショウのこいのぼり

2010年12月20日01時39分発行